

## 大分県「withコロナ時代における献血のあり方について」議事要旨

---

### (開催要領)

1. 開催日時：令和2年11月22日(日)13:00～15:00
2. 場 所：大分センチュリーホテル
3. 登壇者：  
厚生労働省 医薬・生活衛生局血液対策課長 中谷祐貴子  
大分県福祉保健部薬務室長 北村浩一  
大分県合同輸血療法委員会委員長・大分大学医学部附属病院輸血部長 緒方正男  
大分県赤十字血液センター 献血推進課長 毛利英明  
輸血経験者 山下篤  
日本文理大学医療専門学校2年生 中村祐貴

### (プログラム)

1. 開会挨拶 中谷祐貴子、北村浩一
2. 講演①「献血が支える医療～献血の現状とその重要性について～」緒方正男
3. 講演②「献血時のコロナ対策と血液確保の取り組み」毛利英明
4. 講演③「輸血体験」山下篤
5. 講演④「学生ボランティアの活動内容」
6. パネルディスカッション  
ファシリテーター 中谷祐貴子  
パネリスト 北村浩一／緒方正男／毛利英明／山下篤／中村祐貴
7. 閉会挨拶 中谷祐貴子

\* 敬称略・順不同

---

### 1. 開会挨拶

#### ① 中谷

日本では、輸血などに用いる血液製剤は国民の皆様の善意の献血によって支えられています。一方、少子高齢化により、近年20代、30代のような若年層の献血者が減少傾向にあります。将来には血液製剤の安定供給が難しくなる恐れがあります。新型コロナウイルス感染症の流行により、献血血液の確保が難しくなりましたが、自治体や日本赤十字社献血の御協力により、必要な献血を確保できました。本日は新型コロナウイルス感染症流行下でも先進的な取り組みをしている大分県で、「withコロナ時代における献血のあり方について」について意見交換できるのを楽しみにしております。

## ② 北村

大分県における令和元年度の献血は、前年度より増加しましたが、10代から30代の若年層の献血が減っており、若年層献血基盤の確立が大きな課題です。そこで県では献血への理解と協力を呼び掛けるために「はたちの献血」キャンペーンや高校生献血の輪拡大推進事業、大分県学生献血推進協議会への業務委託などを通じて啓発活動を行っています。しかし今年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響で安定的な献血確保が難しくなっており、バスの仕切りの設置や献血バスの予約運用など、3密対策徹底の体制を構築しています。

### 2. 講演①「献血が支える医療～献血の現状とその重要性について～」

国内で使用される輸血製剤の100%が献血由来です。輸血では血液を成分に分けて、患者さんが必要とする成分だけを輸血する方法が行われ、貧血や血小板減少などに使用されています。輸血は医療においてなくてはならないものですが、輸血製剤には使用期限があるため、毎日新しい血液が必要です。新型コロナウイルス感染症の蔓延下では輸血の不足が危惧されましたが、血液センターの努力や待機手術が減ったことによる輸血使用量の減少などにより、幸い現在まで輸血が不足する事態には陥りませんでした。しかしwithコロナ時代においては待機手術も含め必要な医療が継続してしっかりと提供されることが必要であり、そのためには以前と同様の献血の確保が医療を守るためにも多くの方に献血のご協力をお願いいたします。

### 3. 講演②「献血時のコロナ対策と血液確保の取り組み」

大分県では献血の7割以上をバスによって確保しています。しかし新型コロナウイルス感染症の流行により、7週連続で計画数を下回りました。発想を転換し、19台のバスで事前に予約して献血をしていただく予約運行に切り替え、はがきやメールで献血の依頼をかけ、一人ひとりに電話をして、予約を依頼しました。その結果、血液の確保に成功しました。今はラブラッドという会員サイトから予約できる状態ですが、献血経験者しか予約ができません。今後はサイト会員を増やし、予約運用にさらに磨きをかけていきたいと思っております。

### 4. 講演③輸血体験

私は成人性急性リンパ性白血病、いわゆる血液のがんになりました。成人の発症率は10万人に1人。長期生存率は15～35%とされています。移植前の処置段階で血小板輸血を3回、移植後の処置で血小板輸血を13回、赤血球輸血を3回、行いました。そのおかげで今の私があります。これだけ医学が進歩しても血液は人工的に作れません。それだけ献血というのは大事です。献血のおかげでつながる命があるというのをお伝えしたいです。

### 5. 講演②学生ボランティアの活動内容

大分県学生献血推進協議会は、学生有志のボランティア団体です。1年間の主な活動内容としては、4月に合同研修会、7月に献血サポーター、12月に全国学生クリスマスキャンペーン、1月に「はたちの献血」キャンペーンを実施しています。しかしこれら一連の活動内容は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていません。そこで私たちは Twitter を利用してのキャンペーン、ラジオやテレビへの出演をすることでの情報発信、リモートでの交流会、他県との情報交換、YouTube を利用した献血セミナー動画の投稿、リモートでの啓発活動など、今だからこそできる方法で今後も献血の啓発活動を行っていこうと思います。

## 6. パネルディスカッション

### ① 中村

若年層の献血者数を増やすには、まず分からないことを前提として、知っていただくための取り組みが必要ではないかと思います。今、社会的なブームになっている有名なアニメやアイドルなどとコラボして、献血グッズを作ることなどで、幅広い世代の方に献血を知っていただければと思います。私たちは加盟校である 27 校に、献血に関するセミナーを開催していくことが自分たちにできる最大限のことではないかと思います。

### ② 毛利

50 代の献血率が高いのは、高校献血が盛んだったため、継続して献血を行っているからです。しかし行事が増えている今の学校で献血のために 1 日時間を設けていただくのは難しい状況です。一方で「20、30 分の献血セミナーなら協力できます」と学校や大学、専門学校の方からおっしゃっていただいているので、今後リモートでのセミナーの実施を検討しています。そこでラブラッドの会員になってもらえるようにご案内するとともに、献血経験者しか登録できない仕組みを変えて、献血未経験者も登録できるように進めていきたいと考えています。伝え方次第で、若年層の協力者は増えると考えています。

### ③ 北村

大分県では高校生献血の輪拡大推進事業に取り組んでいるのですが、高校生の時代から献血に関心をもってもらうことで将来にわたる献血者を確保したいと考えています。具体的には校内での啓発活動、地元団体とコラボした街頭広報の実施、献血ポスターの作成・掲示などを行っています。

現在、県内約 70 校のうち実際に加入いただいているのは 14 校ですので、これから加入校を増やしていく必要があると考えております。行政としては、県庁の広報をうまく活用した啓発が必要ではないかと思います。

### ④ 山下

若者に献血を広めるためには一時的なブームではなく、文化として根付かせないといけないと

考えております。そのためには義務教育の時点でしっかりと献血の重要性について触れて紹介することが大事ではないかと思えます。

また私のように病気になったとしても発信することで世の中には伝わるし、変えていくこともできます。今、病気で戦っている人は辛いですが、とにかく頑張っていきましょう。

#### ⑤緒方

若い世代でも人のために役に立ちたいと思う方は決して少なくないのですが、最近では情報をきちんと吟味して自分で判断される方も多く、また「見立ちたくない」「でしゃばりたくない」「他人を巻き込みたくない」という傾向があるように感じます。そうした場合、個人できちんと判断できる情報を提供することが必要ですので、若い人が利用するスマホのアプリとしての提供などは良い方法なのではと思います。献血のデータ、過去の履歴、輸血に関する情報の通知などの機能を利用すれば、もっと献血に触れてもらえるのではないかと思います。また一方で医療側としては輸血の適正使用をより推進していくことも重要なことであり、院内での啓蒙を続けていきたいと思えます。

#### 7. 閉会挨拶

献血事業は、啓発をして血を集めるところで終わりではなく、医療機関で使用され患者さんが治るまでが一つの流れです。そうしたことを踏まえて、行政、日赤、医療従事者、治療を受けた患者などの幅広い関係者が連携して啓発を進めていくことがwithコロナ時代に必要ではないかと、皆さんのお話を聞いて思いました。ぜひ周りのご家族やお友だち、職場の同僚にも、献血の重要性を広めていただきたいです。コロナに関して、皆さん日々大変なこと、不安もあると思いますが、ぜひ一緒に乗り越えて、希望を持って、いい医療が提供できるように協力できればと思います。本日はありがとうございました。

以上